

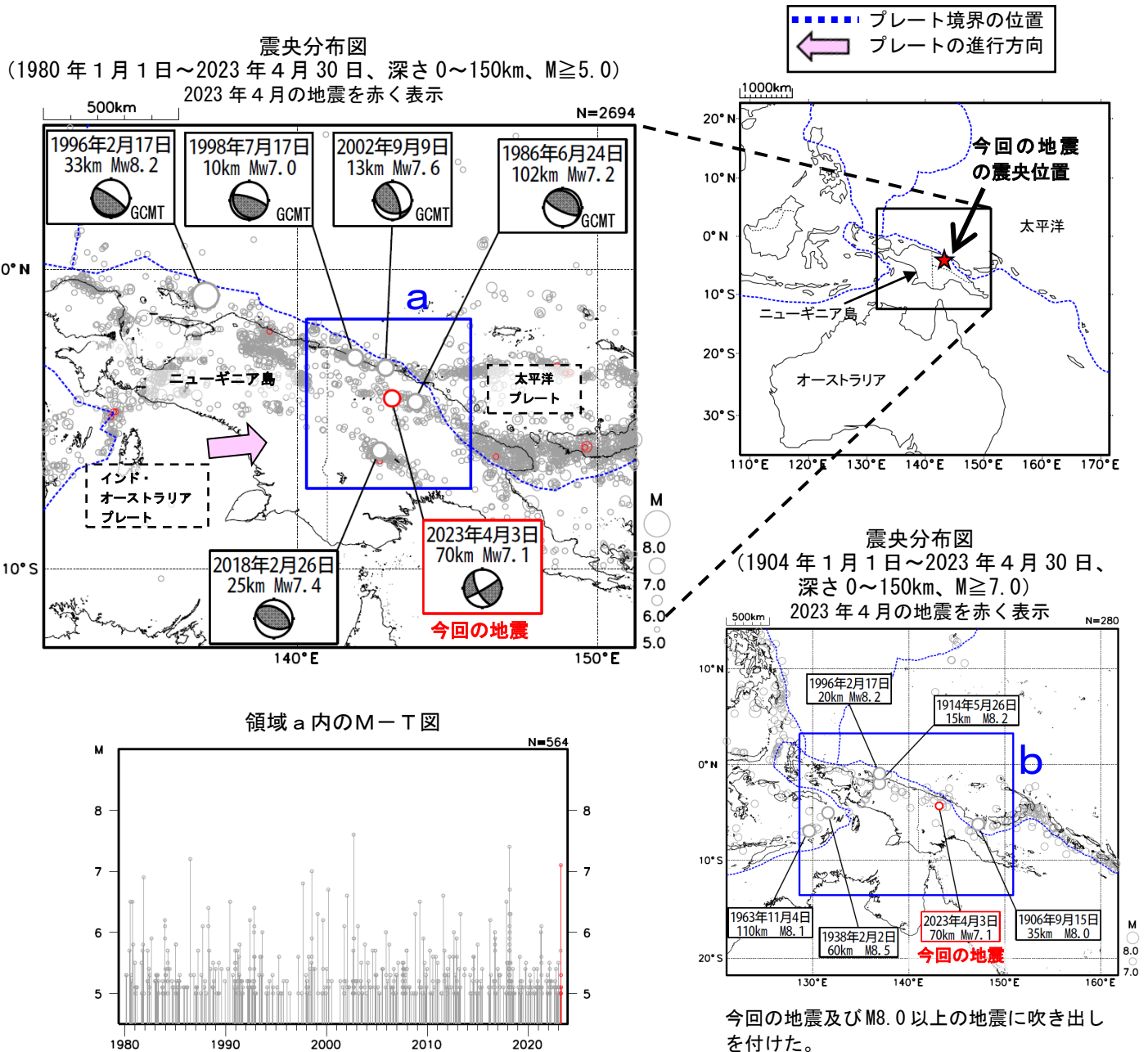
4月3日 パプアニューギニア、ニューギニアの地震

2023年4月3日03時04分（日本時間、以下同じ）にパプアニューギニア、ニューギニアの深さ70kmでMw7.1の地震（Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード）が発生した。この地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は、南北方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

気象庁は、この地震に対して、同日03時31分に遠地地震に関する情報（津波の心配なし）を発表した。また、この地震により、死者8人、負傷者11人などの被害が生じた。

1980年以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域a）では、M6.0以上の地震が時々発生している。1998年7月17日にMw7.0の地震が発生し、死者2,700人、負傷者数千人の被害が生じた。

1904年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、M8.0以上の地震が5回発生している。1996年2月17日にはMw8.2の地震が発生し、父島（東京都）で104cm、串本（和歌山県）で96cm（ともに平常潮位からの最大の高さ）など、日本でも津波を観測した。



※上図内の震源要素は米国地質調査所（USGS）による（2023年5月9日現在）。ただし、吹き出しのある地震のうち、「GCMT」が付いた地震の発震機構とMwはGlobal CMT、その他の地震は気象庁による。プレート境界の位置はBird (2003) *より引用。今回の地震の被害は、OCHA（UN Office for the Coordination Humanitarian Affairs：国連人道問題調整事務所、2023年5月9日現在）右下図内の震源要素は、2019年まではISC-GEM Global Instrumental Earthquake Catalogue Version 10（1904-2019）、2020年以降は米国地質調査所（USGS）による（2023年5月9日現在）。ただしMwは、1996年2月17日の地震はGlobal CMT、今回の地震は気象庁による。

*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.